

# よいみみのこうま

ふん・ささき たづ え・なかむら ゆき



# よいみみのこうま

ぶん・ささき たづ え・なかむら ゆき



世界・のり出版



もう はるは そのまじで、まじ、いると  
いうのに、くもった。それから、まだ

ときおり、ゆきが、あちらから

まいおちて、きました。

でも、どうぶつこのどもたちは、その

ほいいろの、そのの、したで、

げんきいっぱい、あそんで、いました。

かくれんぼ、する、もの

この、ゆび、とまれ、

かくれんぼ、する、もの

この、ゆび、とまれ、

まもなく、そこへ、「びきの、くりげの

こうまが、やって、きました。けれども、

まじの、こどもたちの、すがたは、

もう、みえませんでした。

この、こうまは、いつも、みんなと

なかよく、あそんで、いました。

でも、うまれつき、みみの、まじをい

この、うまのこは、みんなが、あそびに

きた、こどもに、まがつかないで、ときどきあ

おいてまぼりを、くいました。

こうまは、あちらこちら、かきまわって

さがしましたが、みんなの、すがたは

みあたりません。

そこで、こうまは、その、ひ、「にち、

ひとりで、まげんよく、あそびました。



つぎの ひは、ほんとうに はるが、あたまがなまい おでんきでした。  
きょうは、あの こうまも みんなの なかまに はいって、げんきに  
あそんで いました。

「あつ、こんを とこに おはなが、さいてる！ すいせんだ。」

と「わの ことが、いいました。」

みんな、かけまわって、それを、みました。

ひだまりの、つちの、なかから、はえた、すいせんの、みどりいろの

はるが、はと、ひらきかけた、しろい、はなは、まるで、はるの

おつかいのまようでした。

「きれいだ！」

「きれいだね！」

こどもたちは、はなめ、なかせ、そよよの、うきうきをまわした。



「おはなの まんなかの とこ、きいろいね、ほら、きいろい  
おちやわんみたい。」

と「びきの りすが いいました。」

「ほんとは。」

「おちやわんみたいだ。」

「で、あんなに なつてるとだらうね。」

と「こどもたちは くちやあに いいました。」



「これはお花だ。」

お花はあんなにきれいな色で、あんなにいい匂い。

お花はあんなにきれいな色で、あんなにいい匂い。

お花はあんなにきれいな色で、あんなにいい匂い。



それから こじかまは、じぶんの くびの ところを みんなに みせて  
いました。

「ぼく、ここにここに、こえなに、けが、うずまいでるでしょ。これは、  
ぼくが、かみさまに、つくられた、しるしだってま。なんでも、かみさまが  
つくった、ものには、ちやんと、しるしが、ついてるんだって。」

「ふーん！」

と、みんな、かんしんして、ききました。

きつねのは、りょうです。ねっしんは、あたまの、てっぺんを  
さぐって、いましたが、

「あっ、ぼくも、あった、ほら、ここに。」

と、だいにきつねにつむじを、みんなに、みせました。

それから、きつねは、

「きみ、ある？ ぼく、みて、あげる。」

と、こじかまの、あたまを、しらべに、かかりました。こじかまは、



「はくの しるしは せなかにあるの、ちやいろい けの なかに ある しらいもようだよ、でも ふゆは ないんだ。」

と いいました。

「わたしの しるしは くちばしが あかいのか？」

「はくは ひかる はねの さき。」

「せなかの しまだ。」

「しっぽの うちの しらい けだ。」

みんな おもしろいのに いいました。

きつねのは、こうまの そばへ ちかまって きて いいました。

「きよの、どこ？ わた みせて。」

こうまは しずかに たったまま

だまって いました。

きつねは はじっこく、うまの おなかの したを くぐったり、

まえあしに きかかったり、ほうぼう しらべました。

こうまは つやの ある くりいろの けなみでしたが、もようも しまでも

けの うずまきも どこにも

ありませんでした。

「ないねえ。」

と、こぎつねが いいました。

「ないよ。」

「ほんとだ。」

「どうしてだろうねえ。」



